

月形演習林と見本林を豊かに身近に

~利用しやすい月形演習林、校内見本林を目指して 2023~

北海道岩見沢農業高等学校 森林科学科

細谷瑠希乃 村上陽大 大森煌貴 北田星楠 田村秋菜 西原佑岳 本莊杜虎 宮城輝拓 棟方煌貴 山下優弥

研究の背景・目的

本校森林科学科の実習フィールドとなっている 月形演習林はフィールドが広大であり、林道や林 分地等を把握することが生徒にとって難しく、森 林を管理する上で重要な全体像をイメージしにく い状況です。見本林は入りずらく、入っても、樹 種看板以外の情報や、ベンチなどのゆっくりでき る場所もなく、興味のない人には面白みがなく、 それぞれ「利用しづらい」ことが課題であり、こ れを改善したいと考えました。

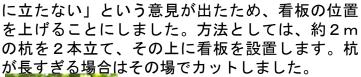
それらの課題を解決し利用しやすい月形演習林 と校内見本林を創造することを目標としました。

研究の内容・成果

月形演習林の活動

演習林の全体像を把握するために、林道、林分の 調査を行います。その際に、昨年取り付けた看板の 状態を把握し、異常や改善点を探っていきます。そ して、秋までに林道の状況がわかる案内看板を作成 し、設置する予定としました。

5月の踏査の際、改善点として 「看板の位置が低く、目線から遠 く見つけにくい」、「草やササに 隠れてしまい、看板そのものが役



最北端まで

あわせて周囲のササを刈り、 🤻 遠くからでも、看板が確認でき 【 るようになりました。

しかし、この方法では、多く の杭が必要となる上に労力も大 きいため、広い演習林には不向 きであると考えました。

そこで、立木の幹を活用する

方法を試すことにしました。

バネと針金を繋ぐ公園や街路樹などでもよく見 かける方法ですが、どの程度の耐久性があるかも 含め、林内で試す価値があると考えました。

ただし、雪深い月形に対応す るため、校内で試行した結果、 バネは1本ですが、少しでも摩 擦が大きくなるように工夫し、 留める針金を2本ずつにしまし た。この作業を9月に実施しま したため、来春に再点検を行う 必要があります。



校内見本林の活動

校内見本林には、この地域では珍しいスギやメ タセコイヤなどの樹木、数多くの野鳥も観察でき る空間となっています。ベンチや掲示物をとおし てこの空間を小さい子供から高齢者までが安全に 利用でき、季節を感じたり樹木について学んだり 、楽しんだりできる空間にしたいと考え、まず、 環境整備や遊歩道の修繕からはじめることとしま した。

5月の点検の結果、腐朽により、地上に出てい る部分が砕けてなくなってしまっているものや、



※ 完全に抜け落ちてしまったも のが多く見られました。そこ で、私たちは腐食の速度を下 げ、丸太をなるべく長いまま 利用するため、横に寝かせる

事にしました。

月形演習林のトドマツ人工林内で間伐した長さ 約2mの丸太を利用し、丸太と丸太の間に1本ず つ杭を入れ、アクセントとしました。杭は少しの 衝撃で抜けることのないようにハンマーを利用し て20cm以上打ち込むように設置しました。ト ドマツならではの白い樹皮が他のどの要素とも混 ざらずにしっかり認識できる仕上がりとなりまし た。







作業は、全体の2分の1まで進みましたが、今 後も継続、維持していく必要があります。

今後の展開

月形演習林については、目指していた林道の状 況がわかる掲示が実現できませんでした。具体的 には、各ポイントに現在地がわかる演習林地図を 配置したいと考えています。また、低い位置にあ る看板のつけ替えは、南半分が未完となっている ため、今後も継続します。

見本林については、歩道の整備を完了し、休憩 ができるようなベンチの設置を実現したいと考え ています。また、誰でも利用できることを伝える ために、植物だけでなく、野鳥などの紹介ができ るコーナーを設置して、身近に自然とのふれあい を体験できる場があることを広めたいです。